

(熊本農業高等) 学校 平成30年度(2018年度)学校評価表

1 学校教育目標

「敬天愛人」の校訓のもと、人格の完成を図りながら、各地・各界で活躍できる人材の育成を目指す。
また歴史と伝統を大切にした特色ある学校づくりに努める。

教育スローガン

「輝く理想を揚げ 尊き使命を果たすため 生徒をほめて伸ばす 南園教育」

「人間力を高め 一隅を照らす人づくり 熊農魂で名実ともに日本一」

2 本年度の重点目標

教育とは流水に文字を書くようにはかない業である。しかし、それを岩壁に刻むような真剣さで取り組まなければならない。教育の基盤はあくまでも、教師と生徒との信頼関係である。教師が誠意と熱意を持って教育に真剣に打ち込むときに、生徒の心は動かされ、魂を呼びさまし、そこに信頼感が生まれる。

また、地域の人々に愛され、期待され、生徒が夢や目標を持ち、夢に挑戦することで、自分に対する自信と他者に対する思いやりの心を育成する学校づくりに努める。

教育は人なり（3つの火を燃やそう）

- ①一隅を照らす灯(教職員ひとり一人が個性と専門性を発揮し、さらに人間力を磨く。)
②石中の火(火打ち石から火花が散るように前例踏襲でなく果敢にチャレンジする。)
③燎原の火(教職員が仲良くスクラムを組んで野焼きの火のように協働する。)

目指す生徒像・目指す教師像（5つの誓い）

- ①口は人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。
- ②耳は人の言葉を最後まで聞いてあげるために使おう。
- ③目は人の良いところを見つけるために使おう。
- ④手足は人を助けるために使おう。
- ⑤心は人の痛みがわかるために使おう。

8つの気配り

- ① 挨拶は、心通わす贈り物
② 5分前、守る心が余裕うむ
③ 服装は、あなたの心の鏡です
④ 忘れ物、家を出る前もう一度
⑤ みてみよう、机の中と身の回り
⑥ つかっていますか？ きれいな日本語
⑦ イライラは、急ぐあなたの命とり
⑧ 掃除とは、あなたの心磨くもの

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校生活の充実と魅力発信	生徒の学校生活の充実度を向上させ、入学希望生徒を増やす。	学校が楽しいと思う生徒が80%以上、前期入試倍率を全学科2倍以上にする。	授業及び特別活動を充実させ、生徒が活躍する場を多く設け、成功体験から自己肯定感を20%向上させる。生徒募集に係るプロジェクトチームを立上げ、10年先を見越した生徒募集の在り方を構築する。	B	熊農に入学してよかった。学校が楽しいが前年比各3～7%増89%に達した。各種活動に積極的が3%向上し充実度が向上している。生徒募集に係るプロジェクトチームも立ち上げ活動の結果、前期受験者が50人増となった。
学力向上	授業改善	「生徒による授業評価」で評価を上昇させることができたか。	昨年度最も評価が低かった項目「分かりやすさ」で4.40を目指す。	「本時の内容」の取組みを徹底する。	C	1回目：4.20 2回目：4.22 授業の見通しをつけ分かりやすい授業をめざす。
	授業確保	授業時数のばらつきが抑えられたか。	曜日・時限による授業時数のばらつきを4時間以内に抑える。	学校行事等の見直しと削減、及び週時間数の割り出しを早く行い、曜日・時限調整をこまめに行う。	A	2月の授業時数までで5時間の差がついた時限が1つ。あとは時数差を4時間以内に収められた。
キャリア教育（進路指導）	系統的・計画的進路指導の充実	系統的進路指導の実践と進路意識の向上進路情報の提供	各種模擬試験受験と、資格を3種以上取得させる。3年1学期までに3回以上各種ガイダンス	2年次3学期までに三者面談や個人面談を行い、第一志望候補を具体的に検討するなど家庭との連携や進路意識を高める。	B	進路便りの発行等で保護者への意識の啓発に努めてきた。特に2年生は年末より面談を始めており、2年次における進路意識の高まりを見る

			に参加させる			ことが出来た。今後は、その実現に向けて適宜環境を整えていく必要がある。
	キャリア教育の充実	職業理解能力の向上と勤労観、職業観の育成	3月末の就職内定率100%を目指す。	各学年2回以上の進路ガイダンスを実施し意識の高揚を図る。	B	各学年とも2回以上のガイダンスを実施することが出来た。学校求人利用の生徒に関しては100%を達成したが、縁故等での未定者への対応を徹底する必要がある。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	爽やかな挨拶と礼法指導の徹底 端正な服装指導の徹底 時間厳守の指導徹底	登下校指導を年間10回以上実施する。 生活指導カード(イエローカード)発行枚数を各学年8枚以内に止める。	生徒会、委員会等の生徒、職員による挨拶運動の実施。入室時マナーの指導徹底。 職員全員がチェックカードを携帯し、服装指導の徹底を図る。 毎日の学校生活で全職員が共通認識を持ち指導を徹底する。	B	登下校指導を7回実施、今後、2回は実施予定。 イエローカード発行枚数、3学年9枚、2学年1枚、1学年0枚。3学年は目標達成できなかった。
	交通安全の推進	交通安全モラルの確立と二重ロックの徹底	二重ロック施錠率98%以上を常時目指す。 生活指導カード(ピンクカード)発行枚数を各学年10枚以内に止める。 交通事故発生件数を全校生徒の5%未満を目指す。	毎日の登校時に二重ロックの点検を実施。事故防止のための交通安全指導を年2回以上実施する。 交通違反等で指導された生徒への清掃活動指導の実施。 事故対応(報告義務含む)について指導する。	C	二重ロック施錠率98%超。 ピンクカード発行枚数、3学年2枚、2学年12枚、1学年11枚。2つの学年において目標達成できなかった。 交通事故発生件数17件(2%弱)。
	生徒会活動の充実	各種委員会の活動・活動性・行事等の充実 部活動の活性化	クラスや学校が「楽しい」「満足している」と感じる生徒を85%以上にする。	定期的な委員会の開催を実施。 定例の生徒会を通年で開き、様々な行事の運営・準備・企画等を協議し、実践する。	B	生徒の学校満足度91.5%(783人)。 ほとんどの生徒が学校に満足している一方で、不登校や保健室登校の生徒もいるのは事実である。
人権教育の推進	人権問題の正しい理解とその合理的判断力の育成	職員研修の充実	年3回、職員研修を実施する。	生徒の個性に応じた指導を行うため、生徒理解研修を実施する。 指導力を向上させるために、問題事例に学ぶ。 生徒が人権を意識して活動できる環境を各科・各分掌・各教科で作る。	C	生徒指導部や生徒相談部と協力して生徒理解研修を実施し、共通理解に努めた。 回数は達成したが、内容の充実を図る必要がある。
	基本的な人権尊重の精神と実践力の育成	身の回りの差別問題についてLHRを実施する	1学期に1回ずつ各担任によるLHRを実施する。	各学年のLHRテーマを次のようにし、指導案の作成を行う 1年、いじめ・ハンセン病・職業差別 2年、男女共同参画・部落差別・進路保障 3年、進路差別・結婚差別・3年間の人権教育の	B	各学年の各学期で各テーマに沿って、LHRを実施できた。担当が統一した指導案を作成したので、担任による指導の差は少なかった。テーマのつながりやそれぞれの深化を図っていか

				まとめ		なければならない。
いじめの防止等	未然防止への取組強化	いじめを許さないクラス・学校づくり、生徒全員が安心して学べる環境づくりの実践	「いじめ防止」に関する年間計画の90%以上の実践。 「いじめ防止」に関する職員研修を実施する。	「いじめを許さない」雰囲気づくり、生徒一人一人の観察と個人面談等での情報収集に努め、積極的なコミュニケーションを図る。教職員間で情報を共有し、組織としての取組を実践する。	C	年間指導計画の実施率85.4%(35項目)今後も計画を実施することで目標達成が臨める。 「いじめ防止」に関する職員研修が不十分であった。 76名の気になる生徒に個人面談を行い、情報を共有できた。
	早期発見による取組	いじめ防止のための組織運営の強化及び早期問題解決と予防の強化	生徒の意見収拾に努め、アンケートを年間通じて4回以上実施し、生徒及び保護者が、抵抗なくいじめに関して相談できる体制を整備する。	「学校独自のアンケート」および「こころのアンケート」を学期毎に実施する。 保健室来室並びに遅刻・早退・欠席等の状況報告を共有する。 PTAに相談窓口を設置依頼し、活用できるよう周知を図る。	B	アンケートの実施回数3回。今後行う予定で目標達成が臨める。 保健室来室や遅刻早退等の情報共有を週に1回実施することができた。
	発見後の対応	いじめ問題への対応マニュアルの周知徹底及び実践	いじめと思われる事案が発生したら、即対応、3日以内に事実関係を明らかにし、5日以内にいじめ問題対策委員会を開催し、マニュアルにより対応する。	「いじめ問題対応マニュアル」の周知徹底を図る。 聞き取りを徹底的に行い、迅速な情報共有と関係機関との連携を図る。指導の検証及び事後観察等の実施を行う。	B	いじめと疑わしき事案が発生した際、目標に掲げる対応が迅速に行えた。また、その後の指導についても、生徒指導部やいじめ問題対策委員会を中心に、校内職員に止まらず、各関係機関との連携を図り対応に当たった。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域と本校との連携強化	具体的方策の実施状況と成果	大規模災害の発生を想定した避難所・学校運営ができる。	学校運営協議会(GS)開催、避難所運営委員会開催、自治体と市と学校との合同訓練を実施する。	B	自治体と市と学校管理者との実動訓練は実施したが、生徒を交えた訓練が出来なかった。
	生徒の防災意識の高揚	具体的方策の実施状況と成果	大規模災害の発生を想定して自主的・協働的な行動ができる。	防災教育LHR+避難訓練実施(年3回)、防災を取り入れた授業展開、防災新聞の発行など。	A	防災教育LHR+避難訓練を3回実施。防災新聞を4回発行。防災を取り入れた授業が増えた。
特色ある取組	生徒が輝き活躍する農業クラブ活動の推進	農業クラブ活動の充実	農業クラブ県大会最優秀賞5部門、全国大会入賞7部門以上を目指す。プロジェクト活動の推進	農業クラブを中心とした活動を実践する。地域・関係機関・学科間連携を重視した活動を実践する。	A	農業クラブ県大会では、意見発表・プロジェクト発表・家畜審査競技で7つの最優秀賞を獲得することができた。プロジェクト活動においても各学科においても地域と連携したプロジェクト活動を推進することができた。

	農業の良き理解者を増やすための地域貢献活動の推進	農業教育を活かした地域貢献活動の強化	地域ボランティアの推進 幼保少中校との連携強化と地域ボランティアへの積極的な参加を促す。 学科の教育内容を公開する。	農業体験学習の実践。 開放講座、中学生向け公開講座。 地域イベントの参加や農業高校フェアによる農業高校のPR活動。 マスコミへ情報発信。 学校HPの充実。	A	開放講座では7つの講座に84名182講座の申し込みであった。中学生向け公開講座では、模擬授業や農場見学を実施し、参加した中学生や保護者から高い満足度を得られた。地域イベントや農業高校フェアにも各学科協力の下、積極的に参加し、学校のPRができた。
--	--------------------------	--------------------	--	---	---	--

評価の基準

A：十分達成できている
B：おおむね達成できている

C：やや不十分である
D：不十分である

4 学校関係者評価

(1) 職員及び評価委員

ア 良かった点

- 生徒募集プロジェクトチームに入り、中学校での高校説明会に何回か参加させてもらい良い経験で自信にもなりました。ぜひ来年も行きたい。
- 人が入れ替わったので、職員の雰囲気はかなり変わったと思います。みんなで同じ方向を向いて生徒たちを成長させていきたいです。
- 生徒は伸び伸び学校生活を送っていると感じます

イ 課題及び提案

- 保護者と担任が直接話す機会が少なく、もっと保護者向けに情報の提供（HPや熊農メール）に力を入れてほしい。クラス単位での取り組みもしてほしい。例えばクラスBBQ、レクリエーションなど。
- 上記の意見に賛成です。少し付け足します。PTA 役員や保護者と話す機会をもっと活用した方が良いと思います。PTA 総会後の懇親会や、地区懇談会、南園会反省会、卒業祝賀会などです。

ウ 全職員で考え、取り組みたいこと

- もう少し職員間の連携やまとまりが必要と考えます。このことこそ熊農の課題の一つと思っています。
- 部活動に積極的に参加・活動をしていますが、そのことが学校生活により影響を与えているとはいい難い面もあります。正直、本業である学業がおろそかになり、部活動のみで終わっています。今後、進級、進路のことを考えると、バランスを考える必要があると思います。家庭学習や授業への取り組みをもっと重視すべき段階にきているのかもしれませんが、もちろん、生徒たちの楽しみを奪うことではなく、あくまでも、バランスの問題だと思っています。

エ 生徒への指導

- 一部の生徒に全く挨拶をしない者がいる。誰であろうと目上の人に対して挨拶するように指導していただきたい。部外者の方が来られていても何も言わずに素通りする生徒が見受けられる。挨拶は基本。挨拶がもっとできたらと思います。
- 女子の冬服で上着を脱いでセーター姿ではいけないとあります。であれば学校指定のセーターでなくても良いような気がします。せっかく学校指定セーター（少し高い？）を買わせているのであれば公式ウェアとしてセーター姿でも問題ないと思います。
- 部活動・農業クラブ・その他の活動において全体的に成果が少ない。生徒に賞を多く獲得させられるような取り組みが必要ではないか。（指導が出来るような時間の確保など）
- 学校指定バックについて、現行の物にリュックを追加し、生徒が選べるようにしてほしい。肩掛けは体のねじれを生み、体に負担をかけるため。また、両腕が空くため安全面でもプラスである。ただ、電車乗車時の指導は必要である。
- 子供達が楽しい学校生活を送れるように願っています。

(2) 保護者からの意見

ア 施設・設備等

- 薬用ハンドソープとかトイレや手を洗うところに設置してもらいたいです。インフルエンザはまず手洗いが重要ですから…。
- 畜産科に所属していますが、更衣室に冷暖房が完備されていないので、子どもたちが辛い思いをしていないか気になっています。朝早くから夕方まで生徒たちは頑張っていますので、検討して頂けたらと思います。甘やかしてはいけないとは思いますが、体調を崩しては何にもなりません。子どもた

ちが頑張れる環境も必要ではないでしょうか？

イ 生徒指導等

- 先日進路説明会に参加させて頂きました。家ではまだ十分な話し合いが出来ていないので、子どもにとっていい進路が導けるよう考えて行きたいと思います。
- 楽しい学校生活を送っています。ご指導ありがとうございます。・服装頭髪検査が厳しすぎませんか。切っても耳に少しついただけで再カットと言われて帰ってきます。
- クラスが荒れています。クラス内で数名の子供が仲間はずれになっていると聞いています。学校内でどの様に受け止め対策をとられているか、知りたいです。難しい事だと思いますが、親が学校にどこまで望んでいいのかわかりません。子供が楽しく高校生活を送れるよう、家庭と学校と一緒に共有して子供を見守っていかれたらと思います。よろしくお願いします。
- 相談に来た生徒を怒るような対応をすると子供が何も聞けなくなる。
- 頭髪検査において、髪質も考慮してほしい。
- 頭髪検査で検査の1週間前に切っているのに検査にひっかかるというのは、ちょっと厳しすぎるのではと思います。前髪も横の長さも学校から言われているとおりに切っているのですが、髪の生え方も人それぞれなのでそこをもう少し考えてほしいです。
- 昨年度とは違い部活の練習時間について帰宅時間を考慮し指導していただいたり、テスト期間前は部活を休みにしていただき、部活と勉強の両立を図っていただいていると思います。担任の先生と少しお話をしたいと思います。生徒同席だと話がしにくいので、1度お時間のある時に、保護者が都合を合わせますのでお話をしたいです。

ウ その他（要望等）

- 何に対しても本人次第だと思います。学校に行くのも、欠席にしても遅刻にしても…。人や物事のせいにするのは逃げになるので、せめてそこは把握しておいて欲しいです。
- 配付プリントを渡し忘れがあるので連絡は学年でもクラスごとでもメールでもらえると助かる。
- 新しい制服の情報が欲しい。
- いちごの販売日程を教えてください。大根ありがとうございます。
- 子供はH科ですが、ある一人の先生が「H科は問題が多い（1年～3年）」「これだからHかは・・・」と言われるらしいですが、一生懸命している生徒に対してやる気をなくす発言はやめて頂きたいです。人間関係が悩んでいるのは事実ですが、その事も、もう少し早めに学校で取り組んで頂きたいです。個別で話を聞くなど・・・先生にもう少し相談しやすい環境を作ってください。
- 1年生の時よりあまり情報（連絡）がない気がします。
- 1年生の時の方が手厚く感じられたが、進路についても本人の意欲も感じられなくなった。
- 体育祭ですが今年は走る競技ばかりであまり楽しめませんでした。前年度の方が色々な競技があり、見ていても楽しく笑ったり応援したりできたので前に戻してほしいです。120周年に向けてと校則など決まりを色々厳しくされているみたいですが、きちんとした校則も必要ですが高校生なのでもう少し信じてゆるくされた方が生徒も息苦しくないのではないのでしょうか。

(3) 学校評議員から

ア アンケート結果から

- シンデレラポークは教師ばかりでなく、生徒たちが四苦八苦した成果が素晴らしかったです。当園との交流”玉ネギ・芋ほり”体験では園児にわかり易いように紙芝居など説明方法に工夫があり、生徒さんたちの熱意を感じました。日ごろの交流に感謝します。
- 創立120周年記念式典、祝賀会等お疲れ様でした。出席された皆様や外部の方から高い評価をいただきました。特にうれしかったことは、在校生の態度でした。御指導いただいた先生方に感謝申し上げます。

イ 評議員会・評価委員会の中から

- 入学してよかった95%、UDの取組ができています。挨拶がよくできています。
- キャリア教育の教育充実100%を目指す。
- キャリア教育と進路指導は異なるのではないかと・・・
- L G B Tの取組み、職員が認識する必要がある。特別支援教育の取り組みも必要。
- いじめの認知は2件、12人の生徒がアンケートで答えているが・・・
- 年3回の人権教育はどのようにしているか。人権擁護委員をしているのでいろいろ相談があるが、パワハラ、セクハラの相談が多い。外部機関にも相談してほしい、協力していきたい。
- 校長へ毎朝のゴミ拾いにお礼、部活動性のあいさつは良いが、一般の生徒は物足りない。町内の住民には、見守りを兼ねた散歩をお願いしている。
- 4月から元三町の区画整備事業が始まる（5年ほどかかる）いろいろ周辺の整備を市や県にお願いしているところである。イベント開催で街中の路上駐車はしないよう連絡してほしい。
- 夜間パトロールを実施している（週2回）不審者情報は警察へ連絡してほしい。
- 青パトの設置、防犯指導員の高齢化が進んでおり地域や学校へもお願いしたい。
- 生徒の帰宅時が心配。8時過ぎ遅くに帰る生徒を家まで送ったことがある。
- 生活科の生徒との交流や、園児とのふれあいにとても感謝している。日々の実践を継続してほしい。
- 同窓会長として120周年の協力に対してお礼。生徒募集も気を抜かず頑張してほしい。
- 社会を明るくする運動への協力依頼
- アンケートから職員の生徒理解の数値が低いのが心配。対応が必要。

- アンテナを高くして様々な問題に対応してほしい。
- 学校の雰囲気は良い。アンケートは生徒から発信する方法、実施する時期にも配慮を。

5 総合評価

昨年から取り組む各部のプロジェクトチームを中心とした学校改革及び課題解決が少しずつ定着してきた。取り組みを強化する項目を各部2～3項目上げ、数値目標を掲げ、具体的取組内容を協議しPDCAを取り入れて年間を通し活動してきた。各部とも初期の目標を達成し「A」及び「B」評価が多くなった。ただ、アンケートの記述式回答にもあるように全体への周知の不徹底から、職員間の意識のずれが出でおり大きな課題として残った。また、いじめ問題や人権教育、交通指導が「C」評価となり課題がある。人権教育を柱に据えた指導で生徒や職員の人権感覚を向上させるとともに、「いじめ」を許さない雰囲気を作りたい。全体の取組として、行事の見直し等による業務の軽減と、それに伴う職員の負担感を軽減する取り組みにより、生徒と向かい合う時間の確保は少しずつだが確実に改善している。120周年記念式典の成功はで外部からも高い評価を受け、生徒や職員の自信に繋がっている。

6 次年度への課題・改善方策

- (1) 各部・系の主導によるプロジェクトチームによる取組と実践
 - ※ 校内の課題、問題点等改善を要するものを、各部、系のチーフが中心となり、担当者を決め少人数で協議し、学校全体の取組につなげる。(P→D→C→A)の実施
 - ※ 平成30年1月から取組をスタートしており、学校全体での定着を図る。また、全職員の共通理解と歩調を合わせた取組が実践できるよう対策を図る。
- (2) 働き方改革の実践
- (3) 学習指導要領改訂に伴う教科、カリキュラムの見直し
- (4) コミュニティスクール定着に係る地域との連携推進
- (5) 5年後、10年後を見越した学校経営方針の構築(生徒募集を含む)